トキということ

願法みつる

大河ドラマも、当初の泥臭さい場面から平安（貴族）の配景描写に移ってきた。その過程で、保元・平治の乱の渦中に在った頼長、信西という博識な人物が印象に残る。史実に依れば、ともに当時における博覧強記の頭脳を持ち、朝廷行政をリードしたとか。二人は時代の流れの中で一時の実権栄華を得たが、支える世論が得られなかったのであろうか。何事も天のトキと言うことかも知れない。

ナンテ堅い話が柳誌巻頭言に不向きであることなどは、十分承知している。発想を川柳の現実に投影してみたい。

現今の駄洒落的な川柳遊びや判じ物的な時事川柳の跋扈は、川柳を冠しながら伝統的な川柳とは異なる今様物の感が強い。この先を想像すると、江戸末期から明治期にかけての狂句的川柳時代に戻ってしまうのではないかなどと、たいした学もない人間ながら怖れを感じるのである。

短詩文芸である短歌・俳句を認めながら、これに伍していきたい川柳文化の行く末を、どの様に想像したら良いのであろうか。今にして、本格的な川柳文化を再発芽させる力を発揮しなければならないトキにあると思うのである。

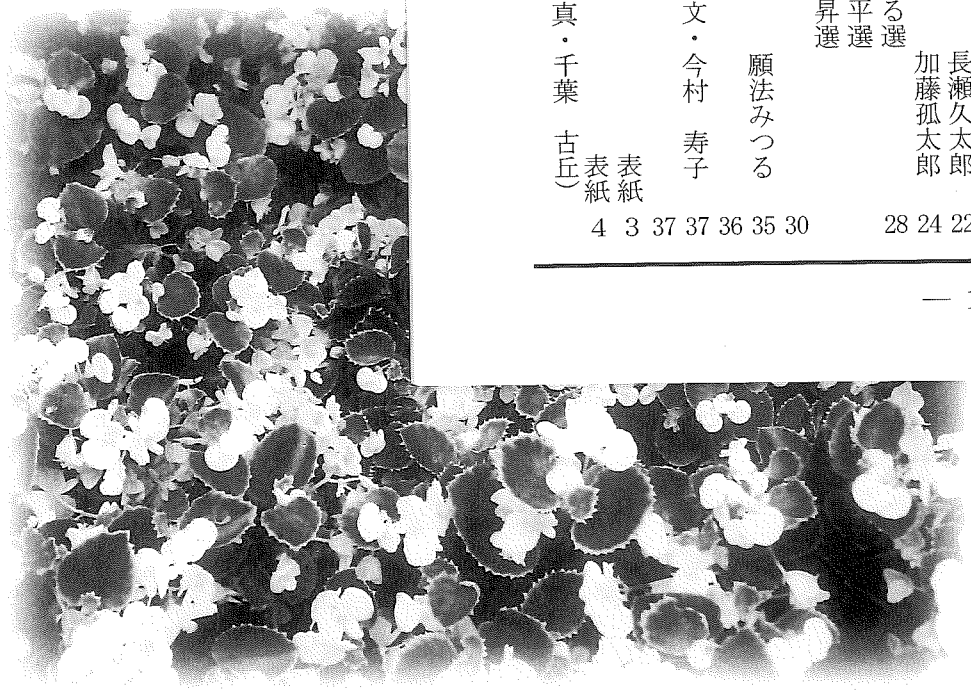
出でよ平成の逸材。文章に秀で世論に訴え得る人材と、支援組織の登場を待ちたいトキである。挙兵の声が上がれば、川柳界全体即ち世論の応援は可能であると信じている。日本人は危機にこそ団結する伝統的な民族なのだから。

九月号　目次

堅太郎句抄（九）　表紙
巻頭言　トキということ　願法みつる　1
彩玉集 ― 同人吟　2
さいたまの柳人㉘　大塚やまぶき　5
桜と華子のおいしい川柳　戸田美佐緒　6
雑　詠　願法みつる選　8
映像コラボ　石田　正則　8
あの日あの時　中島　英季　15
七七句　松田重信選　16
拝啓川柳様其の一　初めましての巻　大塚やまぶき　20
第36回全日本川柳徳島大会受賞作品　21
交替鑑賞　自問自答　長瀬久太郎　22
初歩添削講座「惜しい」「雑詠」　加藤孤太郎　24
題　詠　「勧める」　願法みつる選　28
「プラン」　四分一周平選
「泡」　石井　昇選
さいたま八月句会　願法みつる　30
権威という言葉　35
あなたからわたしから　36
古丘の世界　文・今村　寿子　37
インフォメーション　37
編集さろん　表紙
句会案内　表紙
表紙（題字・清水　美江　写真・千葉　古丘）　4

さい

川柳



ベゴニア

平成24年

9 月号 (No.634)

日川協加盟